学校番号	４１４

令和２年度　国語科

教科	国語科	科目	国語総合	単位数	4	年次	1
使用教科書	三省堂『精選国語総合　改訂版』						
副教材等	啓隆社『図でつかむリード現代文１』/数研出版『プレミアムカラー最新国語便覧』尚文出版『常用漢字ダブルクリア　四訂版』/ 東京書籍『新精選古典文法　改訂版』/桐原書店『リトルバード古典－基本編－』						

1　担当者からのメッセージ

・この科目は、「国語総合（現代文）」の時間と、「国語総合（古典）」の時間にそれぞれ２単位ずつに分けられている。
・高校１年生として、基礎的な国語の力を身に付けることを心がける。
・教え合いやプレゼンテーションなど、アクティブな活動を取り入れた授業を行う。
・さまざまな文章を「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けていくよう心がける。
・古典の時間では、有名な古文と漢文の作品に親しむとともに、正しく心情等を理解するために語彙力や文法の知識をしっかりと身に付けることを心がける。
・予習・復習と、課題は必ず丁寧にこなすこと。
・提出物の期限は守ること。定期考査は学習計画を立てて臨むこと。

2　学習の到達目標

・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙）	記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随想	【近代以降】 ・筆者独特の「読書のススメ」について読み取ることを学び、それを踏まえて「偶然性」と「発見」に満ちた自分の体験を振り返る。 ・語句の意味や用法を理解し，語彙を豊かにする。 ・常用漢字の読みに慣れ，また正しく書く。 教材:「ぐうせん、うたがう、読書のススメ」				◎	○	d：述べられた事例から、筆者の考えを理解している。 e：主な常用漢字の音訓の正しい使い方をみにつけている。	d：記述の点検及び定期考査 e：記述の分析及び定期考査
	小説(一)	【近代以降】 ・文章に描かれた人物，心情を表現に即して読み味わう。 ・語句の意味を理解し，語彙を豊かにする。 ・常用漢字の読みに慣れ，また正しく書く。 教材:「羅生門」		◎		○	○	b:登場人物が主張する論理を適切に理解したうえで、その論理に対する意見交換、話し合いができる。 d：比喩表現や語りの視点に注意して、作品世界の状況を把握し、人物の考え方とその変化を理解している。 e：主な常用漢字の音訓の正しい使い方を身につけている。	b:行動の観察 d：記述の点検及び定期考査 e：記述の点検及び定期考査
	古文入門	【古典】 ・文章に描かれた人物，心情を表現に即して読み味わう。 ・歴史的仮名遣いや古文の語彙・文法の基本を学ぶとともに、描かれた人間像を理解し、古文の世界に親しむ。 ・文語のきまりや語句の意味を理解する。 教材:説話『宇治拾遺物語』「児のそら寝」				○	◎	d:文章を表現に即して読み,「児」や「僧」の心情や人物像をとらえている。 e：歴史的仮名遣いと用言について理解している。	d：行動の確認及び記述の点検 e：行動の観察と記述の確認及び定期考査
1学期	古文入門	【古典】 ・文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わう。 ・文語のきまりや語句の意味を理解する。 教材:『竹取物語』「かぐや姫の生い立ち」				◎	○	d:　文章に描かれている情景を文章に則して読み，「かぐや姫」や「翁」の心情や状況をとらえる手掛かりとしている。 e:　語句の意味について理解している。基本的な助動詞について理解している。	d：記述の確認及び記述の点検 e：記述の確認と点検及び定期考査

2学期	評論(一)	【近代以降】 ・論旨を正確に追いながら、筆者の言う文化の相違を読み取る。 ・語句の意味や用法を理解し，語彙を豊かにする。 ・常用漢字の読みに慣れ，また正しく書く。 教材:「水の東西」	○			◎	○	a:日本と西洋の水の比較から、文化の違いについて考えを深めようとしている。 d：鹿おどしと噴水の違いに着目して、日本人と西洋人の水に対する考え方を理解している。 e: 文章の組立てについて理解している。同音異義語について理解し，使いこなせる言葉の数を増やしている。常用漢字の音訓を正しく読み，また文脈に応じて正しく書いている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d：記述の点検及び定期考査 e：記述の点検と分析及び定期考査
	評論(一)	【近代以降】 ・「言語」が「色眼鏡」であるという筆者の認識を正確に捉え、私たちが言語にどのように関わっていく必要があるのか、考えを深める。 ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取り，要約したり詳述したりする。 ・常用漢字の読みに慣れ，また正しく書く。 教材:「言語は色眼鏡である」				○	◎	d：引用された事例から、筆者の考えを理解している。 e:常用漢字の音訓を正しく読み，また文脈に応じて正しく書いている。読むことに必要な概念を理解し、使いこなせている。	d：行動の観察と記述の点検及び定期考査 e：行動の観察と記述の点検及び定期考査
	短歌と俳句	【近代以降】 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。 ・国語における表現の特色について理解する。 ・文章の語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにする。 教材:教科書に掲載された短歌				○	○	d：三十一文字のリズムや句切れをふまえて短歌を読んでいる。 e：短歌の特色に気付き，日本の伝統的な言語文化に対する関心を広げている。詠嘆表現，体言止め，反語表現，命令表現などが，表現上の特別な効果を生み出すことがあることを理解している。	d：行動の観察 e：行動の観察と記述の確認及び定期考査
2学期	短歌と俳句	【近代以降】 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。 ・国語における表現の特色について理解する。 ・文章の語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにする。 教材:教科書に掲載された俳句			◎	○	○	c:自身でも短歌を作ることができる。 d：十七音のリズムや切れ字をふまえて俳句を読んでいる。 e：俳句の特色に気付き，日本の伝統的な言語文化に対する関心を広げている。体言止め，切れ字，対比，比喩などが，表現上の特別な効果を生み出すことがあることを理解している。	c:書く能力 d：行動の観察 e：行動の観察と記述の確認及び定期考査

	漢文入門	【古典】 ・文章の形態に応じた表現の特色に注意して読む。 ・我が国の文化と外国文化との関係に気付く。 ・訓読の働きを理解し、漢文を訓読できるようにする。 教材:漢文入門				○	◎	d: 漢文訓読の文体に注意しながら読んでいる。用例としてあげられている故事成語の意味を理解している。 e：漢文訓読の文体が，現代語の文章表現の骨格の一つとなっていることに気付いている。漢文と現代日本語について，文の構造上の違いを理解している。訓読のきまり（訓点を用いた訓読方法・書き下し文）を理解している。	d：行動の観察 e：行動の観察と記述の点検及び定期考査
	故事	【古典】 ・文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わう。 ・我が国の文化と外国文化との関係に気付く。 ・訓読のきまりについて理解する。 ・国語における言葉の成り立ちを理解する。 教材:「借虎威」				◎	○	d：「虎」や「狐」の描写の仕方をとらえ、この寓話から筆者の主張を考察している。 e: 漢語が現代語の文章表現の骨格の一つとなっていることに気付いている。訓読のきまり（使役の「使」の用法）を理解している。日本語としての「虎の威を借る狐」という言葉が歴史的にみてどのように成立してきたかを理解している。	d：行動の観察及び定期考査 e：行動の観察と記述の点検と確認及び定期考査
3学期	小説(四)	【近代以降】 ・文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わう。 ・国語における表現の特色について理解する。 ・語句の用法や表記の仕方を理解し，語彙を豊かにする。 教材:「清兵衛と瓢箪」			◎	○		c:登場人物の置かれている状況や考え方、心情の変化、場面の推移を理解し、自分の考えや意見を書くことができる。 d:文体や語りの視点に注意して、作品の世界の状況を把握し、人物の考え方とその変化を理解している。	c: 記述の確認及び分析 d：行動の確認及び定期考査
	歌物語	【古典】 ・登場人物の心理を、状況や行動に即して理解し、歌の読解と鑑賞を通して歌物語の特徴を学ぶ。 ・文語のきまりや表現の特色を理解する。 教材:『伊勢物語』 「芥川」				◎	○	d：地の文と和歌の関係をふまえて男の心情をとらえている。 e:歌物語における和歌の修辞や，語句の用い方について理解している。文語のきまり（助詞の種類と働き）を理解している。	d：行動の観察及び定期考査 e：行動の観察と記述の点検及び定期考査

		【古典】 ・文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わう。 ・文語のきまりや表現の特色を理解する。 教材:『伊勢物語』 「筒井筒」	○			◎	○	a:第二段落の男と女の態度について、自分ならどうするか、どう思うかという視点に立って考えている。 d：贈答歌の手法を理解して，登場人物の心情をとらえている。 e:歌物語における和歌の修辞や，語句の用い方について理解している。文語のきまり（助詞・助動詞）を理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d：行動の観察及び定期考査 e：行動の観察と記述の点検及び定期考査
	和歌	【古典】 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。 ・我が国の伝統的な言語文化について理解する。 ・文語のきまりや語句の意味を理解する。 教材:「古今和歌集」	○			○	◎	a:言語文化に対する関心をもって取り組むことができる。 d: 掛詞の使い方をふまえて読んでいる。 e:和歌という表現方法の効果や，その価値について理解している。和歌の修辞や，語句の用い方について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d：行動の確認 e：行動の確認と記述の点検及び定期考査

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：話す・聞く能力　　c：書く能力
d：読む能力　　e：知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。